

横浜保育福祉専門学校 学校関係者評価委員会における指摘事項等

令和5年3月17日および5月25日、本校にて社会福祉法人施設長、県立高等学校校長、戸塚区区役所職員、地域住民代表、卒業生代表(保育士)よりそれぞれ1名、保育園園長2名、合計7名に委員として出席いただき、教職員7名と学校関係者評価委員会を実施した。指摘事項等は以下のとおり。

1. 教育活動について

- ・Icon（岩崎学園全体での教育成果発表会）での本校の防災カルタの発表は素晴らしかった。オンライン技術の向上は、交流した際に実感した。このように外部の人から評価されることによって、学生の自信につながると感じる。
- ・対面授業を経験してからオンライン授業を経験するとオンラインの良さを感じられた。逆の場合には、良さを感じにくいと思う。オンラインの良さを活かしつつ、対面授業を増やしていけると良いと感じる。
- ・副担任制度の導入は評価できる。教職員の学生支援への手厚い配慮がみられる。
- ・高校現場でも退学が増えており、精神的な不安定さを理由に退学していく学生が多い。将来に目標を見いだせないようである。この学校は目標を持って入ってきているが、一方で結果的にミスマッチだった学生も増えているのではないか。
- ・欠席に関しては、高校でも同様の悩みを抱えている。高校での指導も一つの原因と感じる。また、コロナの影響が大きいことも考えられる。今日の報告から先生方の工夫が垣間見えた。個別対応をさらに充実させてほしい。TA制度は高校でも参考にしたいと思う。また、異学年交流で下級生、上級生とも力が伸びるのではないだろうか。
- ・実習生を受け入れる立場として、実習前に見学に来てもらってもよいのではないか。ここ数年、学生が受け身の様子を顕著に感じる。2年生の実習後情報交換会について、保育園についてだけでなく施設に関しても取り組んでほしい。

2. 就職について

- ・就職後は、自分で考えてできることも重要だが、コミュニケーションが取れる、他の職員に聞ける勇気が必要であり、より一層のコミュニケーション力の強化にあたってほしい。そのようなことから実習前のインターンシップは重要である。
- ・退学する学生がその後就職しても、長くは続かないことが懸念される。横浜市は、保育士不足が続いており、急な休みや、退職されるとやはり現場は困ってしまう。意欲の低下などを考えると、ある程度やめてしまうのは仕方ないが、現場としては、確実に長く続けてくれる学生を送り出してほしい。心の強い学生を選抜して入学させる工夫も必要ではないだろうか。

3. 社会貢献・地域連携について

- ・地域で子育て支援を行っているが、子どもたちも親も以前よりコミュニケーション能力が下がって

いるように見える。一方で、親に関しては自分たちで何かをつくり出すことは苦手であるが、あるものを利用するのは得意である。学生等若い世代と共に、地域が一緒になって、子育て支援を盛り上げていきたい。

以上